

千早・要町・高松・千川 地域

○日 時 平成 21 年 12 月 2 日（水）午後 7 時～午後 9 時

○会 場 千早地域文化創造館 第 1 会議室

○区民参加者 17 名（別記一覧）

○区側出席者

区 長	高野 之夫
教育長	三田 一則
政策経営部長	横田 勇
総務部長	小野 温代
施設管理部長	上村 彰雄
区民部長	齋藤 賢司
文化商工部長	東澤 昭
図書館担当部長	加藤 芳成
清掃環境部長	永田 謙介
保健福祉部長	大門 一幸
子ども家庭部長	吉川 彰宏
土木部長	亀山 勝敏

○司 会 政策経営部企画課長 小澤 弘一

区 民 参 加 者 一 覧

千早三丁目町会	町会長	小山 清
要町二丁目町会	町会長	高山 弘造
千川駅前商店会	会長	中島 駿
千川駅前商店会	副会長	坂本 幹夫
区民ひろば千早運営協議会	会長	高木 継夫
区民ひろば高松運営協議会	会長	中原 茂雄
区民ひろばさくら運営協議会	会長	北村 修
第 8 地区青少年育成委員会	会長	本山 美子
第 9 地区青少年育成委員会	会長	石川 智枝子
アトリエ村資料室		本田 晴彦
池袋モンパルナスの会		小池 陸子
千早図書館友の会	代表	高山 訓江
特定非営利活動法人豊島区体育協会	常務理事	宗田 昭弘
千早地域文化創造館	館長	小柳 嘉一
要小学校 P T A	副会長	北川 英美
千早小学校 P T A	会長	赤尾 由美
高松小学校 P T A	会長	小山 英之

主なご意見・ご要望の要旨と回答

(※以下、枠内がご意見・ご要望、枠外は区からの回答として整理しています。)

○千川上水及び千川小学校跡地の整備について

・千川上水を復活させ、清流の流れる水辺を整備したらどうか。地域住民の憩いの場の提供と温暖化防止にもなる。
・千川小学校の跡地を整備しながら、地域住民が利用できる多目的ひろばも合わせてつくっていただければ地域住民の福祉にプラスになる。

・東京メトロの工事が来年4月から始まる。その際に湧水をポンプアップし千川上水を復活させたらどうか。すでに東京で実例がある。行政から東京メトロへ協力を仰げばどうか。点々と存在している学校の森をベルト状に整備し、さらにそこに水辺が付加されれば地域環境レベルが上がり、他地域からも人が集まり、地域も活性化される。千川上水はかなりの距離があるので一部を公園道路としていただければ、豊島区の他地域へのアピール度が高くなる。環境問題もある程度クリアできるのでは。

千川上水の復活については、平成元年に東京都下水道局が多摩地区の清流復活事業を行ったことで、豊島区でも話題になり、千川上水公園までの通水、沈殿池の復活の要望が出されました。平成3年には60周年記念事業として千川上水の復活事業を行うことを決定し、平成4年度から6年度までの3カ年で最終的には要町三丁目あたりの開渠化を目指し、通水工事については東京都に要請する予定でした。そのため平成4年度に暗渠管の調査を行いました。調査では、管内20箇所の異状が確認され、土砂の堆積も多く、逆勾配等も見つかりました。路線によっては全体の45パーセントの異状が確認されたところもあり、想像以上に痛みが進んでいることが明らかになりました。調査報告を東京都建設局河川部に提出し、通水工事を要請しましたが、相当の整備復旧費が必要となり、管路使用許可・詳細な埋設状況調査等を行わなければならないことから、緊急性に照らし都費の支出は困難との結論が出されました。これを踏まえて区でも検討が行われましたが、①流末が確保されないで水を流すことはできない。②関係区との協議が必要である。③財政上、事業の執行が困難であるとして、計画を断念いたしました。このような経緯で、現在の状態にとどまっておりますが、当面の区の財政状況を考えますと、現段階での緊急性は見い出せないと思われまます。

土木部長 亀山 勝敏

千川小学校跡地につきましては、当地域が近隣公園不足地域にあるため、豊島区基本計画において、運動機能に配慮した近隣公園を整備することとしておりますが、整備にあたりましては、様々な方々の要望も踏まえ、具体的な整備計画を固めてまいります。

施設管理部長 上村 彰雄

○育成委員会の活動、災害時要援護者手挙げ制度について

・育成委員の活動はボランティアであり、制約が多いと活動がしにくく、委員のなり手もなくなるのではないか。

～アンケートより～

・防災課が進めている災害時の手あげについて、当初、広報紙等に載った。その後、継続しているようだが、もっと PR してほしい。該当者に郵送でお知らせしてもよいのでは。

日ごろから豊島区の青少年健全育成活動にご尽力いただきましてありがとうございます。

青少年育成委員会の活動は、お話にもありましたようにボランティアで活動していただいております。私どももその活動には本当に頭の下がる思いです。また、活動の内容につきましても、それぞれの地区で特色のある活動を行っていただき、豊島区の子どもたちは幸せだと常々思っているところでございます。

しかしながら、区が青少年育成委員会に対して行っております補助金の財源は、税金から賄われております。国における補助金の不正支出などがニュースとなる中で、補助金については、より透明性の高い、誰が見てもわかる形での処理が求められていることは言うまでもありません。今回私どもがお願いしました会計処理は、これまで各地区で自主的に監査し、決算していた内容を、行政にもご提出いただきたいというものでございます。書式につきましては、青少年育成委員会が12地区あるため、統一した形式で提出をお願いすることになり、これまでよりお手数をおかけすることになってしまい申し訳ないと思っております。また、補助金の用途につきましては、補助金の目的が『青少年の健全育成』ということに鑑み、この趣旨に沿った形で各地区の活動にお使いいただければと存じます。今回のお願いは、各地区の青少年健全育成活動に制限を加えることではないことをご理解いただきまして、今後ますますのご活動をお願いしたいと存じます。

子ども家庭部長 吉川 彰宏

災害時要援護者手挙げ制度についてのご意見ありがとうございます。

この制度は、平成19年度から開始した事業ですが、現在、約450人の方が登録されています。毎年、継続的に広報としまで登録を呼びかけ、ホームページや防災訓練などでもPRに努力をしていますが、ご指摘のとおり、登録者数が思うように伸びていない状態です。工夫の一つとして、来年1月15日号の広報としまの一面では、申請書を掲載して、申し込みがしやすいPRを試みる予定です。今後も、様々な方法でPRに努めてまいります。

総務部長 小野 温代

○子どもスキップの設置、保護者への情報提供について

・小学校は重要な活動拠点だが要小学校にはスキップがない。そのため、一部の子どもたちは高松小に行っている。学校の敷地問題があるのは分かるが子どもたちのためにできるだけ早くスキップを設置してほしい。

・要小学校にスキップがないことにより新入生が隣接校に流れているのではないかと。安全を考えるとやはり学校の敷地内に設置してほしい。

・要小学校は学区が広く多くの子どもが通っているので保護者は安全面で心配である。行政はいち早く情報が保護者に届く仕組みを作ってほしい。今回のインフルエンザに関する学級閉鎖などの情報は逐一ホームページにアップされとても助かった。今後も迅速な情報提供をお願いしたい。

平成21年12月現在、23小学校区のうち15小学校区に「子どもスキップ」が設置されています。平成22年4月には、16校目の仰高小学校の開設が予定されています。要小学校については、以前から「子どもスキップ」の設置について検討を重ねてまいりました。校舎内型は、小学校内に空教室が確保できないこと、敷地内型は校庭の一部が借地であること、隣接型は隣接地に区有施設が設置されていないことから、未だ設置計画に至っておりません。

ご意見のとおり、隣接校選択制により「子どもスキップ」が設置された学校を、選択肢の一つとされるご家庭のあることも事実です。「子どもスキップ」の設置に向けて、関係部署と連携をとりながら検討を行っていきます。安心・安全な放課後の時間の中で、様々な経験や交流ができる場所として「子どもスキップ要」を一日も早く開設できるように、努力してまいります。

子ども家庭部長 吉川 彰宏

今回の新型インフルエンザによる学校の臨時休業につきましては、地域の皆様の関心も高く、地域での感染拡大防止のため、広く情報提供することが必要と判断し、学級閉鎖等の決定の都度、ホームページに掲載してまいりました。

今後も、ホームページはもちろんのこと、子ども安全連絡網や安全安心メールなど、様々な手段によりまして、迅速な情報提供を図り、保護者や地域の皆様とともに、児童・生徒の安全を確保していきたいと考えております。引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

教育総務部長 佐藤 正俊

○安全・安心について

・セーフコミュニティ活動を前向きに進めてほしい。夜道を明るくする街路灯の設置など、警察でなく行政にできることをやってほしい。

セーフコミュニティはスウェーデンの地方都市で始まった住民の手で安心・安全な社会をつくろうという運動で、これが体系化されたものです。事故・けがは偶然の結果ではなく、予防できるという理念のもとに、行政はもちろん、地域にお住まいのみなさん、NPO、関係民間団体など、多くの主体の協働により、「みんなが事故・犯罪・怪我なく、安心して暮らしていくにはどうすべきか。」を考え、力を合わせてその原因を取り除いて、みなさんが健やかで元気に暮らすことができるまちづくりを進めていこうとするものです。

現在でも、多様な主体によって地域の安心・安全に関する取組が進められています。十分な連携が図られずに進められているのが実態です。セーフコミュニティでは、それぞれの取組を横断的に連携させて、地域の安心・安全という共通の目標に向かって取り組みを進めることとなります。

これからの地域経営にあたっては、行政はもちろんのこと、区民のみなさま、様々な主体との連携・協働の仕組みを作っていく必要があります。セーフコミュニティとはそのような地域社会を作っていこうというものでもあります。行政では取り組みを進めてまいります。区民のみなさまにおかれてもご協力ください。よろしくお願いいたします。

政策経営部長 横田 勇

豊島区では、歩行者に対する道路照明の基準に基づき、一定の間隔で街路灯の設置を行っています。また、平成19年度から、既存の街路灯より明るく消費電力が従来の1/2の省エネ型の街路灯に建替えを行っています。設置年度の古い順に年間150灯程度、将来的には区内全域の建替えを予定しております。

土木部長 亀山 勝敏

○小鳥がさえずる公園のボランティアについて

・子どもたちがボランティア清掃や鳥へのえさやり等、よい経験をさせてもらっている。ボランティアの世話人に対しては公園の私物化等批判もあるが、貢

献度のほうが高いと感じる。行政もそういった活動をバックアップしてほしい。

小鳥がさえずる公園は、都市公園として、平成4年度に用地購入費と合わせ約15億円をかけて整備しました。今なお約11億円の返済が残っております。公共の施設として区が管理しているものであり、当然地域全体の利益に供されなければなりません。しかし、実態を調査したところ、利用が一部の方々だけに限定されていることを確認しました。地域からそれに対する批判・苦情も寄せられております。現在、税金の投入に見合った、地域での有効活用が十分なされているのかという観点で見直しが行われております。その点からも、区として現在の利用形態を是正していく必要性があると考えております。

土木部長 亀山 勝敏

○区民ひろばの周知と町会等の協力について

- ・区民ひろばの知名度が低い。地域の人も、「ことぶきの家」「児童館」と言えばわかるが、「区民ひろば」と言われても知らない。行政でもっと宣伝してほしい。
- ・区民ひろばの活動で人材に苦勞している。もっと、民生活成委員、町会等から協力をしてもらいたい。行政から働き掛けてほしい。
- ・豊島プール跡地を早く有効に活用できるようにしてほしい。

区民ひろばの知名度についてはご指摘の通りで、昨年秋に実施しました『「地域のつながり」に関する意識調査（標本数5,000）』での「区民ひろばの認知状況」は、「知らなかった」（51.4%）が「知っていた」（46.0%）を上回っております。

そこで、今年度は「広報としま」に特集記事を掲載（8月25日号、22年2月25日号の2回）、「ひろばニュース」のリニューアル（22年1月初旬発行予定）、「PRパンフレット」の発行（22年1月初旬発行予定）、「としまテレビ『いきいき夢ひろば』」での18ひろばのPRなどを実施いたしました。また、各地域でも運営協議会様のご協力を得て、ポスターの掲示板掲示、チラシの回覧等を通して積極的に草の根的PRを実施していただいております。感謝申し上げます。今後とも更なる区民ひろばのPR活動の充実に努めて参ります。

区民ひろばの人材確保につきましては、各運営協議会様の状況により、行政側からの働きかけを再度行うなど協力して参りたいと存じます。

区民部長 齋藤 賢司

○区民ひろばの周知、区施設利用者の調査・分析について

- ・区民ひろばの知名度が低い。看板がはっきりわからないため、施設の前を通り過ぎてしまう。道路に案内標識の設置をしてほしい。

・区の施設をどのような人たちが利用しているか分析してほしい。年代を通して、いろいろな方が利用し、サークル、集まりを形成するのがコミュニティである。区民ひろばは、地域に密接しているので、行事、講座など、あまりコミュニティに参加していない方にも参加しやすいものを企画したい。そのためにも、どのような人たちが利用し、今後どのような人たちに利用してもらいたいか区の方針を示してほしい。ターゲットがわかれば企画しやすいので、調査分析した情報がほしい。

ご指摘のとおり、区民ひろば高松の看板は目立たないため、このたび正面及び南面に「区民ひろば高松」という手作りの表示板を設置いたしました。他のひろばも分かりやすい表示を心がけて参りたいと思います。また、道路標識につきましては、今後検討していきたいと思います。

区施設利用者の調査・分析についてですが、地域区民ひろば課の統計データ「平成20年度世代別利用者数割合」では、全利用者のうち「高齢者」が54%、「18～60歳未満」が19%、「乳幼児」が16%、「小学生」が9%、「中高生」が2%となっています。「18～60歳未満」には、「乳幼児」（16%）の保護者が含まれていることを考えますと、この世代の利用者が他に比べ少ないことが分かります。今後はこの「中間層」の取り込みが課題であり、例えば「小・中学生の教育問題」等の講座を開催し、PTAなどの団体参加を促したり、「サラリーマン向けの講座」「起業に向けての講座」等実施し、夜間や土日の利用推進を図ることが重要かと考えております。今後とも、区民ひろばの運営にご協力をお願いいたします。

区民部長 齋藤 賢司

○「語り部」の活動の提案について

・区民ひろばにおいて、一昨年、今年と畑作りを実施した。子どもの生き生きとした顔を見て、年長者として何かできることはないかと考えた。「語り部」の活動を区民ひろばとして立ち上げることについて、区に「提言書」を提出する。

このたびは「語り部」の活動につきましてご提案いただき感謝申し上げます。ご提案にあるとおり、これからの若き世代に「古き良きもの」「道徳観」「戦争体験」などの「無形財産」を伝えていくことは、地域の世代間交流を進める上でも大変重要だと考えます。

今年度も数か所の区民ひろばにおきまして、各地域の運営協議会主催による「語り部事業」が展開されました。来年度は、各運営協議会とも話し合いを重ね、ご提案を参考に、語り部事業構想実現のための情報収集等から始めて参り

たいと考えております。今後とも、区民ひろば運営にご協力をお願い申し上げます。

区民部長 齋藤 賢司

○西部複合施設、町会への情報提供について

- ・西部複合施設が二年延びたのは残念である。一刻も早く建設をお願いしたい。
- ・見守り、要介護の対象者が把握できていないのが問題である。区で持っているデータについては町会にも提供してほしい。

西部複合施設につきましては、未来戦略推進プラン2009において26年度までに整備することとしております。今後、財政状況等も踏まえながらになりますが、できる限り早急に整備計画を進めてまいりたいと考えております。

施設管理部長 上村 彰雄

ご指摘のとおり、孤独死防止や災害時の要援護者支援の観点から、見守り活動の強化が求められております。

このため、区におきましては、来年度、65歳以上のすべての一人暮らし高齢者世帯及び高齢者のみ世帯の実態調査を実施することといたしました。調査結果は、民生委員に提供し、区、地域包括支援センターと共有しながら、日常的な見守り体制の強化を図ってまいります。また、災害時の要援護者支援につきましては、防災課が手挙げ方式の「災害時要援護者名簿」を作成しているところであります。

ご要望の町会に対する一人暮らし高齢者世帯等のデータの提供につきましては、個人情報保護審査会の承認が必要となります。平成15年に、65歳以上の名簿を閲覧に供することについて、諮問いたしました。情報漏えい防止策が十分にとれるかどうか疑問があるということで、承認されなかったという経過があります。区といたしましては、一人暮らし高齢者世帯等が増加する中、地域での様々な方々による見守り活動が重要であると考えております。

町会へのデータの提供につきましては、今後見守り体制の整備を進める中で、情報の漏えい防止策や町会が高齢者の見守り活動を実施する公益上の必要性などを総合的に勘案しながら、関係課と連携し、検討してまいりたいと考えております。

保健福祉部長 大門 一幸

○町会の発展について

- ・ほとんど住宅地の町会と、住宅地と商店が混在している町会とではあり方が違う。住宅地の町会では昼間に男性はいないため、町会の運営は家庭の主婦にお願いするしかないのが現状である。また、同じ豊島区でも千川・千早・駒込

などは都市計画の制約がきつく十分な建物ができない。平等に発展するような方策を考えてほしい。

椎名町駅、東長崎駅、要町駅及び千川駅周辺は、活気ある生活の拠点として、また、後背地の住宅地域は良好な住居の環境を保護するため、それぞれ最も適切な用途地域が現在指定されています。なお、今後、都市計画道路整備の進展等のより、土地利用や街並みが大きく変動する可能性がある場合には、用途地域の見直しを検討します。

都市整備部長 増田 良勝

○アトリエ村、西部複合施設について

・千川はいろいろなアーティストがかかわっているすごい場所だと思っているが、意外と地元の人がそういうことを知らない。今から、5年前にアーカイブを作り始めたが、最近では遠くから来る方も増えている。地方のテレビや新聞で取り上げられたりもしているので、転換期に来ているように感じている。マップを作っているが、現場の施設や跡地に表示がないため、どこにあるかわからないという声を聞く。千川駅から椎名町駅へ続くアトリエ村をめぐる散策ルートがわかるサイン整備等をしてはどうか。

・跡地利用が二年延びたのは美術館計画にとってはいいことである。準備室を設置し、常勤の学芸員を置いて、じっくり検討してほしい。

アトリエ村をめぐる散策ルートがわかるサイン等の整備につきましては、西部複合施設におけるミュージアム系機能の整備とともに検討すべきと課題と考えております。都市開発課、道路管理課、道路整備課、公園緑地課等の関係各課と十分検討の上、住民の方々のご意見を尊重しつつ、地域文化資源を広く人々に知っていただけるようなサイン等を考えてまいります。

西部複合施設につきましては、平成21年1月の文化拠点整備計画策定委員会による豊島区西部複合施設における文化拠点整備計画案（報告）を受けて、平成21年9月には、西部複合施設におけるミュージアム系機能検討委員会を設置し、現在準備を進めているところです。

準備室につきましては、ミュージアム系機能検討委員会の中で、設置時期、体制、人員等、検討してまいります。

文化商工部長 東澤 昭

○街かど回遊美術館などについて

・街かど回遊美術館も今年で四回目を迎えたが、もっと続けてもらいたい。また、小熊秀雄の作品も収集していただけてありがたく思っている。今後も豊島区ゆかりの文化資料の収集に努めてもらいたい。

新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館につきましては、平成22年度の回遊美術館開催に向けて、年内に実行委員会の準備会を開催する予定です。年明けの早い時期に第一回目の実行委員会を開催出来る準備を進めております。また、3月には、熊谷守一美術館において豊島区新収蔵「小熊秀雄展2」を開催し、今年度購入しました小熊秀雄の作品を中心に区民の皆さまに広く公開いたします。豊島区では、モンパルナス関連の作家を中心に豊島区ゆかりの文化資料を収集し、今後も文化振興に努めてまいります。

文化商工部長 東澤 昭

○地域図書館の現状について

・図書館職員がすべて正規職員でなくなることに對してとても心配している。昔は図書館の中のことをどの職員に聞いても分かっていたが今はそうではない。財政的に厳しいのはわかるがせめて、館長は正規職員で配置してほしい。

駒込・上池袋・目白の3地域図書館については、本年度から館長を廃止して、2名の非常勤の図書館運営専門員を配置しており、現在のところ、順調に運営されていると考えております。千早図書館を含む、残る3地域図書館についても、来年度から、館長を廃止して、図書館運営専門員を配置していく予定であり、現在、図書館運営専門員を選考しているところです。

地域図書館を利用している方や地域図書館でボランティア活動をしていただいている方にはご不便をおかけしないよう、図書館運営専門員には、図書館勤務の経験を有し、熱意も能力もある人をつけ、中央図書館としても、フォローアップ体制をとってまいりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

図書館担当部長 加藤 芳成

○体育施設の活用、設置について

・豊島体育館が40数年ぶりにきれいになった。ジュニア、シニア、障害者団体など広く使ってもらいたい。
・千川小の跡地にもう一つ豊島体育館規模のものを作ってくれと今、考えている使い方を広げられる。選挙のときなど開票会場になるため豊島体育館が使えず、大会も潰れたり、団体や個人の活用も制限されたりする。もう一つあれば、区民のためにもいろいろな大会ができ、活用の幅も広がると思う。

豊島区のスポーツ振興に多大なご協力をいただきありがとうございます。区は、スポーツ振興の重点施策として、ジュニア育成・シニアスポーツ振興事業を推進しております。また、豊島体育館の改修で、バリアフリー化が実現いたしましたので、今後障害者のスポーツにつきましても一層推進してまいります。

と考えております。ジュニア、シニア、障害者団体などの利用拡大に向け、積極的にご提案いただきたくお願い申し上げます。

文化商工部長 東澤 昭

千川小学校跡地につきましては、当地域が近隣公園不足地域にあるため、豊島区基本計画において、運動機能に配慮した近隣公園を整備することとしております。千川小学校跡地を含め、豊島体育館規模の体育館を整備する計画はありませんが、同計画において、地域的なバランス等から朝日中学校跡地と長崎中学校跡地に体育館等（スポーツセンター）を整備することとしています。

施設管理部長 上村 彰雄

○地域文化創造館のあり方、近辺の現状について

・アトリエ村というこの地域の文化を次世代に繋げることが目的であり、地域の人と繋がる講座などを行っていきたい。また、他地域で電柱やマンホールなどの意匠を統一した取り組みを行っているが、他の団体、施設とのすみわけを考えながら、豊島区の文化についての講座等を通して役割を果たしていきたい。

・当館は駅から離れていてわかりづらい。夜も暗くてひったくりが多い。

・今週の日曜日に地域の方と大学生との囲碁の交流戦があった。将来、将棋などの企画を通じて地域のネットワークを構築できれば新しい文化の切り口になるかもしれないと考えている。

地域文化創造館は、施設の指定管理者である「としま未来文化財団」との協定に基づき、各館においてそれぞれ特性を活かした事業展開を図っております。また、地域住民の方々との連携・協働を図り、地域コミュニティの活性化にも努めてまいります。

文化商工部長 東澤 昭